

すみよし



2023年 クリスマス号 第212号

聖句

いつも喜んでいなさい。

絶えず祈りなさい。

どんなことにも感謝しなさい。

テサロニケの信徒への手紙 I

5章 16－18 節

選:ルカ H・T



《巻頭言》

年の瀬を真摯な気持ちで過ごす(人間は苦しみの前に無関心ではられない)

金 台根 (キム テゴン) 神父

ハロウィンが終わるのを恐れたかのように、デパートにはクリスマスモードがブンブンと立ちこめています。クリスマスの当日は祝日でもないし、日本はキリスト教国でもありませんが、クリスマスは、子供からお年寄りまで、誰もが楽しみにしている日です。ケーキを予約し、プレゼントを準備し、そしてケンタッキーフライドチキンまで…。

ふと考えてみました。

信仰のない人にとって、クリスマスはどんな意味があるのでしょうか？

もしかしたら、勇気を出して少しでも教会に顔を出す人もいるかな？

そんな事とは関係なく、ただパーティーを楽しむ日で終わるのかな？

英語の表現に NO CHRIST NO CHRISTMAS という表現がありますが、クリスマスの中心にキリストがいなければ、果たしてクリスマスと言えるのでしょうか？

まあ、それでも意味があるのだろうか、それがどんな意味であれ、人間は意味を与える動物だからな・・・と独り言で自分に言い聞かせます。

人間は意味を求める動物です。阪神タイガースが38年ぶりに優勝カップを手にしたとき、38という数字に関連した様々なイベントがありました。数字にも事件にも、様々な意味を与えるのが私たち人間です。では、2023年のクリスマスにはどのような意味を付与すればいいのでしょうか？

ロシアのウクライナ侵攻がまだ終わらないうちに、イスラエルとガザ地区の戦争が始まりました。あまりにも多くの人々の犠牲が続きます。非常に残念なことは、死亡者のほとんどが、抵抗できない子供や女性であることです。双方の戦争というより、一方的な虐殺に変質したと言っても過言ではない残酷さが、私たちが呼吸しているこの地球のどこかで毎日起きています。それにもかかわらず、経済的にも政治的にも世界中で強い力を発揮しているユダヤ人たちに、誰も大きな声をあげられないようです。また別の復讐につながらないのか？

正義は果たして生きているのか？

この時代に理性は存在しているのか？

戦争が始まった最初のしばらくの間は、旧約聖書を読むのが少し辛かったです。

皆さん、イエスさまは2000年前にベツレヘムで生まれました。そして「その地に住む人々の中に生まれたイエスさま」という意味で迎えようと思います。

皆さんはこのクリスマスにどんな意味を込めて過ごしたいですか？





目 次



☆ 聖句	H・T	・・・	1
☆ 巻頭言	金 台根(キム テゴン)神父	・・・	2
☆ 目次		・・・	3
☆ ありがとうございます！赤波江神父様		・・・	4~7
☆ 赤波江神父様に感謝～上五島巡礼ツアー～A・W		・・・	8~9
☆ お元気でジェロム神父様！ようこそブレイズ神父様！		・・・	10
☆ コンсульта神父様日本着任 25 周年		・・・	11
☆ 住吉教会の平和旬間		・・・	12~15
☆ 住吉教会2023年		・・・	16~24
☆ 住吉フィエスタ2023	M・S	・・・	25~27
☆ 追悼 ブラザー阿部眞理	Y・N	・・・	28
☆ 東北巡礼	(写真)A・Y	・・・	29
☆ チーム紹介		・・・	30~32
☆ 図書紹介		・・・	33
☆ (信徒動静)		・・・	
☆ 教会日誌		・・・	34
☆ 後記		・・・	35

題字:S・Y 表紙写真: 金神父様提供のプレゼピオ(馬小屋)



「すみよし電子版」はカトリック住吉教会 HP にフルカラーで掲載されています。左記二次元コードからのアクセスもご利用下さい。

<https://cath-sumiyoshi.sakura.ne.jp>

《赤波江神父様、ありがとうございます》

4月9日、復活の主日のミサが赤波江神父様の住吉教会での最後のミサとなりました。10年の間2度にわたり私たちをお導き下さり、またともに歩いて下さった赤波江神父様は香里教会と豊岡教会に移られました。若者たちを温かく見守ってくださり、BBQなどパーティーがお好きだった神父様、コロナ禍で我慢の多い時期でしたが、今後も住吉教会のパーティーにはぜひお元気なお顔をお見せください。

一同、たくさんの感謝とともに。



《赤波江神父の黙想のヒント》



4月9日 復活の主日～赤波江神父の黙想のヒント～

「週の初めの日、朝早くまだ暗いうちに、マグダラのマリアは墓に行った。そして、墓から石が取りのけてあるのを見た。」(ヨハネ 20:1)

イエスは、十字架上で亡くなった後、墓に葬られ3日目に復活しました。このことは、信仰宣言の核心ですが、私にはなぜイエスは3日間も墓の中に留まる必要があったのか、なぜすぐにでも、例えば翌日にでも復活しなかったのかという素朴な疑問が以前からありました。この3日間というのは私たちにとって何

を意味するのでしょうか。イエスの死と復活のプロセスは日々私たちの中に流れており、困難を経験してこそ、立ち上がることの意味が理解できるのですが、それまで待たなければならないことが多い。この待つことが私たちにとって大きな試練、精神的な墓場であり、それが3日間の意味なのです。



かつて岡潔という世界的な数学者がいました。私は、この精神的な墓場の意味を彼の言葉から学びました。彼は、かつてある数学の大きな問題にとりかかった時、最初の3か月は全く解決の糸口が見えず、無力感と放心状態に陥ったそうです。その年の夏、友人のすすめで北海道に休暇に行き、そこでも研究を続けたのですが、やはり無力感と放心状態で寝てばかりの生活が続きました。ところが9月になったある日の朝食後、ソファーに座って何気なしに考えているうちに、考えが一つの方向に突然まとまり、数学史に残るような大発見をしたのでした。彼はこう述べています。

「全く分からないという状態が続いたこと、その後眠ってばかりいるような一種の放心状態があったこと、これが発見にとって大切なことだった。種子を土に蒔けば、生えるまでに時間が必要であるように、また結晶作用にも一定の条件で放置することが必要であるように、成熟の準備ができてから、かなりの間おこななければ立派に成熟することはできないのだと思う。だから、もうやり方がなくなったからと言って、やめてはいけないのであって、意識の下層に隠れたものが、徐々に成熟して、表層にあらわれるのを待たなければならない。そして表層に出てきた時は、もう自然に問題は解決している。」

インドの宗教家で哲学者のクリシュナムルティは、「ものごとは努力によって解決しない」という不思議なことを言いました。しかし、「ものごとは努力によって解決される」というメンタリティーの中で生きてきた私たちには、この言葉の意味が分からず、ただ結果の方ばかりに目が行きすぎて、ただ待つことに耐えられない、それは場合によったら一種の罪悪感ですらあるのです。しかし、何をしてもうまくいかず、一種の無力感や放心状態にあるときというのは、実は意識の深層下で何かが熟成、発酵しているときなのですね。何ごとも努力は必要です。しかし懸命に努力した後の熟成期間も必要なのです。解決策というものは根本的にやってくるもの、与えられるものだからです。聖書はこれを聖霊の働きと呼んでいます。

イエスの死後、弟子たちも自分たちが何をしていたのか分からず、無力感と放心状態にあったことでしょう。実は、弟子たちもまた精神的な墓場にいたのでした。弟子たちは復活したイエスと出会うために、実は何の努力もしませんでした。反対に、復活したイエスの方が会いに来てくれて、弟子たちの信仰もまた復活したのです。イエスは死後墓に3日間留まりました。私たちもまた努力が実らず、墓に留まらなければならない3日間というものがあります。それは努力した後、何の実りも見えない試練の期間ですが、実はそこで既に何かが熟成、発酵しているときなのですね。大事なものは、頑張ったけど何の実りもなかったからといって、すぐ投げやりになってはいけないのであって、そういうときにこそ大きなチャンスが目の前に迫っているのです。



4月30日 復活節第4主日～赤波江神父の黙想のヒント～



「私が来たのは、羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである」
(ヨハネ 10:10)

羊は貴重な家畜ですが、飼い主がいなければ生きていけない弱い動物です。その特徴は、羊は必ず飼い主の声を聞いてついて行くことです。イエスは私たちをこの羊に譬えています。その意味は、私たちは神のみ手の中にあり、神は私たちを守ってくださるといふ、神と人間相互の根本的な信頼が、羊が命を豊かに受ける条件だということです。

自分を見つめ、自分と真剣に向き合うことは大切ですが、それに集中しすぎると、そこには大きな危険性も見えてきます。それは、全てを自分一人で抱え込んでしまうということです。何か個人的な問題に取り組む場合、徹底して取り組むことが必ずしも良い解決をもたらすとは限りません。自分自身の間違いと正面から戦えば戦うほど、自分を正当化する力が生み出されていくからです。そして、この間違いを繰り返さないために徹底的対処する結果、思い込みという牢獄の中で、ますます自分に対して厳しくなるか、諦めてしまうかのどちらかです。そして、人に対しても厳しい態度で接するようになってしまうのです。

初代教会の砂漠の修道者たちは、弟子たちに悪魔と正面对決をしないように教えました。悪魔と正面对決するには高度な霊性がいるのであり、通常の人にはそれをもっていない。もし悪魔と正面对決しても、一時的に誘惑に勝ったような気になるが、後でさらに強い誘惑が来て、結果的に潰されてしまう。そうではなく、光である神を見続けよ、そのことによって徐々にではあるが、確実に悪魔に打ち勝つことができると教えました。

この修道者たちが言いたかったのは、人間であることを気楽に考えよということです。そのためにはユーモアの精神が必要です。ユーモアは一つの徳です。教会の霊性からユーモアを切り離すことはできません。偉大な聖人たちは皆ユーモアの人でした。ユーモアの精神は、私たちは神のみ手の中にあり、全てを一人で抱え込む必要がないことを教えてくれます。全てを自分で解決しなければならないと考えれば、もはや自分の責任に耐えられず、人間であることを非常に困難な任務として受け取ってしまいます。しかし、神が私たちの過ちを悲しむことはありません。自分の思い通りにいかず腹をたてているのは自分だけですから。

5月5日は子どもの日です。親が、子どもが間違っただけに腹をたてても、そこから何も生まれません。子どもたちは、誰もが経験する問題を自分で乗り越え、いずれ成長していくのだという信頼とユーモアの精神が必要です。それが子どもというものです。ですから子どもは間違ってもいいのです。子どもは自分自身の間違いから多くのことを学んでいきますから。信頼された子どもは、信頼する力を身につけます。しかし反対に、完璧に教育しようとする、必ずその逆になってしまいます。

六甲山牧場の呑気そうな羊の群れを見ていると、自分も神の前で呑気でいいのだという気になります。呑気さも一つの信仰です。但し、鈍感ではなく聖なる呑気さで行きましょう。

6月4日 三位一体の主日 ～赤波江神父の黙想のヒント～



6/4

「兄弟たち、喜びなさい。」(Ⅱコリント 13:11)

皆さんは、このパウロの言葉を読んで、あるいは耳にしたとき、どんな印象をお受けになりますか。確かに喜びは信仰生活の中心となる大切な言葉です。しかし今様々な困難に直面している人の中には、こんな大変な時に喜びなさいと簡単に言わないでほしい、と反論したくなる人もいることでしょう。

それは私たちがこの喜びという言葉にある種の固定観念をもっているからです。例えば、子どものような無邪気さ、純真な笑顔、笑いなどの感情的な表現です。それでは、パウロはいつも無邪気に笑って暮らしていたのでしょうか。そうではありません。この「喜び」という言葉はパウロに非常に特徴的な言葉で、彼のすべての手紙に見られる、筆頭に挙げられるべき彼の姿勢です。「私は慰めに満たされており、どんな苦難の内にあっても喜びに満ちあふれています。」(Ⅱコリント 7:4)だからと言って、パウロはいつも楽天的、呑気だったわけではなく、他の誰よりも多くの困難を経験したからこそ、それを克服したときの喜びは誰よりも大きかったのです。そのパウロの書簡における彼の苦しみを挙げたらきりがなくらいです。

それでは、この困難を乗り越える、克服するとはどういうことでしょうか。何か強い闘争心をもって困難を撃退することでしょうか。そうではなく、困難を乗り越える一つの大きな道は、そこに意味を見出すということです。例えばパウロはキリストや教会のために「苦しむことを喜びとする」(コロサイ 1:24)と言い、また「キリストを信じるだけでなく、キリストのために苦しむことも、恵みとして与えられているのです。」(フィリピ 1:29)とも言いました。決してパウロは迫害され虐げられてニコニコしていたわけではなく、彼はキリストや教会、人々のために苦しむことに大きな意味を見出していたのです。それを喜びと表現したのです。

「主に結ばれているならば、自分たちの苦勞が決して無駄にならないことを、あなたがたは知っているはずです。」(Ⅰコリント 1:58)だからキリストのため、人々のために辛さをささげることが肥料となって教会という土壌を豊にし、そこから大きな信仰の収穫がもたらされるのです。このことはキリスト者でない一般の人の中にも、辛くても人のためなら頑張れる、人の幸せのためなら必死になれる人は多くいます。人のため、人の幸せのため、それがモチベーションとなってその人の生きがいとなり、喜びとなるのです。

そこから私は、「信仰とは人生に意味があることを知ることだ」と定義します。この辛さを通して神は私に何を教えようとしているのか、などと辛さや苦しみに積極的な意味を見出せば、それまで下を向いていた顔も上がり、表情も明るくなって、おのずと笑顔も出てきます。これが本当の喜びです。

(選:編集部)



赤波江神父様は、住吉教会から香里教会と豊岡教会に転任されましたが、毎週土曜日の「黙想のヒント」は住吉教会にも配信してくださっています。赤波江神父様と通信網にも感謝！！

《 赤波江神父様に感謝 ～上五島巡礼ツアー～ 》

A・W

昨年秋、長崎県上五島への巡礼ツアーが予定されていましたが、ところが台風14号が五島列島を直撃し、日程が無期延期されてしまいました。

ようやく半年後の今年の4月ゴールデンウィークの数日前に、延期されていたツアーが実現することになりました。巡礼旅行ツアーに参加するのは私も家内も初めてです。

新神戸 ⇒ 博多 by 新幹線、
博多 ⇒ 佐世保 by 在来線
佐世保 ⇒ 上五島 by フェリー

行きは行程は 4時間です。



当初、引率予定の神父様は、前田万葉枢機卿でした。ところが枢機卿はご多忙のため、ピンチヒッターで赤波江豊神父になったのでした。のちに知ったことですが、前田枢機卿は、上五島のご出身です。

私の勤務先に前回長期間の休暇を申入れていたこともあり、中止となった時期にツアーの代わりに私たち夫婦は平戸を旅行しました。平戸にも多くのカトリック教会があり、いくつか教会を訪問したのですが、残念ながら私たちだけだったことや、事前に訪問の連絡をしていた訳ではなかったため、教会堂には入れましたが、聖体をご訪問するだけ・・・自分たちでお祈りするしか方法がありませんでした。

しかし今回は、神父様、また旅行代理店の方(仮にTさんと呼びます)の念入りな準備によって、訪問した先々の教会では、毎回神父様の司式でお祈りをする事ができ、そのうち1回は必ずごミサでご聖体を拝領することができました。単独の旅行では行動は自由にでき、巡礼の旅ではツアーでは教会は選ぶことができないけれども、神父様の引率で行った方がいいな、と強く感じました。

Tさん以外に、このツアーで感謝したいのが『上五島観光交通』ドライバーさんとガイドさんです。



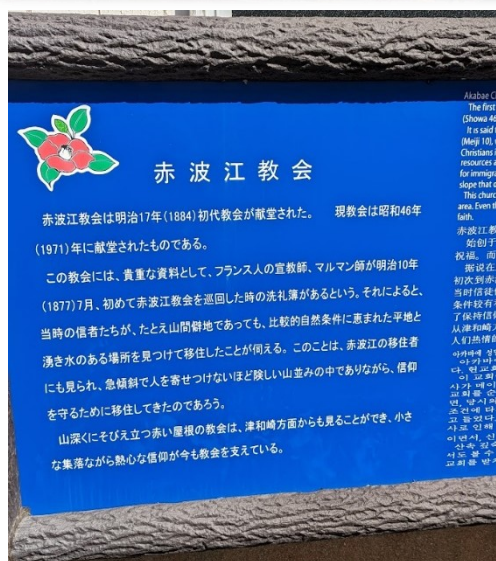
特にガイドさん、大きなお子さんのいるビール好きの上五島に住んでおられる方でしたが、ご自身は信者ではありません。にもかかわらず、訪問する教会毎の情報について驚くくらいよくご存じで、各教会ではつまびらか(詳らか)に解説して下さい、とても理解の助けにもなりました。

そのガイドさんと神父様とのやりとりが、非常に面白く、ガイドさんは涙を流しながら笑い、『こんなに楽しいお客さんは初めてだわ』と感激していました。

上五島には29のカトリック教会がありますが、その中で14の教会を訪問しました。ツアーでご訪問させていただいた14の教会のうち一つが、『赤波江教会』でした。山の中腹に位置しているのですが、オレンジと朱色の間のような原色の鮮やかな色の屋根で遠くからでも目立ちます。開けた島の中心部からはだいぶ離れた海辺の集落から信者さんは上がって来るらしい。ただし信者さんの数が少なくなっているのと高齢化が進んでいるという状況でした。

『あかばえ』、の意味するところは、海辺で朝日でうみが赤く染まる景色を指している、という説があるそうです。屋根の色がとても目立つ『赤波江教会』この屋根の派手な色は、確かに、その朝日に赤く染まった海辺を背負って教会まで登ってくる信者さん達を、思い起こさせるにピッタリの色だと思いました。残念ながら、上空から屋根を撮影することができません。その代わりに写真を添付します。

なお、はじめに述べました様に前田万葉枢機卿様のご生家のそばの教会は『仲知教会』でした。そちらでシスターにいただいたお饅頭がおいしかったこと。私がメガネを『米山教会』に忘れたのですが、『仲知教会』の主任司祭様に探していただき後日送って頂いたことを追記します。



《 ありがとうございます、ジェロム神父様 》

3月12日、四旬節第三主日のミサは一年間お世話になったジェロム・パダモ・サルトノ神父様の住吉教会での最後のミサでした。「一年という期間の長短を思うより、その質が大切です。」というお言葉のとおり、神父様の熱心な思いがこもった様々な行事が思い起こされます。

七五三の祝福、新成人のお祝い、教会学校ではいつも子供達や若い方達をお心にかけておられました。お説教で熱く語りかけられる神父様は宣教の大切さを私たちに教えてくださいました。4月からは淳心会本部に異動されましたが、どうぞお元気で引き続き私たちを見守ってください。一年間ありがとうございます。



《 ようこそ、ブレイズ神父様 》

4月30日、復活節第四主日は、神戸東ブロックに新たに着任されたブインガ・ブレイズ神父様の司式による初めてのミサでした。自己紹介ではご出身のお国のコンゴ民主共和国のことや、今までの教会のことなどをユーモアいっぱいにお話しになり、神から与えられた道を歩むことの大切さを私たちに説いてくださいました。ブレイズ神父様、これからも私たち住吉の共同体をどうぞよろしくお導き下さい。





《 コンсульта神父様、日本着任25周年 》

神戸東ブロックのコンスタンシオ・コンсульта神父様が日本に着任されて25年を迎えられました。お優しい笑顔のタンス神父様、今まで私たちをお導き下さりありがとうございます。これからも私たちの共同体と共に歩んでくださることを一同心より願っております。



お祝いをのべる住吉教会のメンバーに囲まれて、笑顔のコンスル

*12月2日、カトリック神戸中央教会にて行われたクリスマス・チャリティーコンサートの後、住吉教会からのお祝いをお渡ししました。

《 住吉教会の平和旬間 》

(1) 今年の平和旬間における取り組み

世界紛争地域への祈り (2023.08.13 ニュースより)

- 1 : 祈りたい国を選びます。
- 2 : 世界地図に印 (鳩のシール) をつけます。
- 3 : その地域のために毎日祈ります。



教会ホールには、現在戦争や紛争中の国が赤い点で示された世界地図が張り出され、

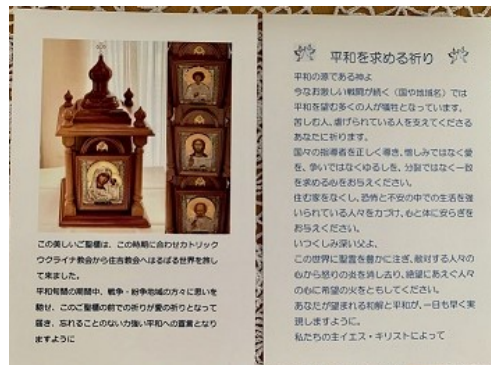


平和旬間を通して、紛争地点を覆うように平和の鳩がたくさん飛び交うようになりました。

ウクライナ・カトリック教会のご聖櫃が到着しました (2023.07.23 ニュースより)



金神父の歩みを象徴するご聖櫃がミサ後に公開されました。美しいご聖櫃はウクライナ→USA→韓国→住吉と、はるばる世界を旅しました。ミサの中で金神父が「今年の平和旬間の祈りは、“平和にとって特別な祈り”です」と言われ、このご聖櫃の前で祈る私達にとって、忘れることのできない言葉となりました。



(2) 2023年平和旬間アンケート結果

評議会集計

今年の取り組みについて、世界の情勢を積極的に知るきっかけになり、目で見え理解しやすく、改めて認識させられた、との感想を信徒からのアンケートで得ました。



— わたしたち一人ひとりが平和のつくりびと —
2023 第11 平和旬間テーマ
「希望をもってともに歩む Let's hope and walk together
—あきらめずに目を覚まして Stay awake, never give up—

カトリック住吉教会平和旬間行事
テーマ:『戦争は死です。』-ヨハネ・パウロ二世

ウクライナだけでなく、世界には戦争・内乱などが
行われている地域が数多くあります
そこで暮らす人びとの平和のために祈りを捧げましょう。

8月15日(火) 18:30 ~ ロザリオ
19:00 ~ 平和祈願ミサ
平和旬間期間中: 8月6日(日)~15日(火)

ホーカに張り出している世界地図の戦争・紛争地域を各自調べ、
その地域のために「平和のための祈り」をお捧げ下さい。
お祈りしていただいた後、地図の地域にシールをお貼りください。

祈りをささげる国の選定理由（抜粋）

- ・戦争で苦しんでいる人や人権を奪われている人のため。
- ・国の指導者が国民のために正しい判断をしますように。
- ・一か所だけでは不公平、たくさんの国を選んで祈った。
- ・過激派組織によるテロ、略奪や暴力が日常化している。
- ・民族間の紛争（トルコ）。
- ・軍力により抑えられている市民のため（ミャンマー）。
- ・ミャンマー国民が軍政の抑圧から解放されるように。
- ・指導者が市民の心を理解できるよう（ロシア・ウクライナ）。
- ・内紛で弱者や食べることも出来ない市民のため（南スーダン）。
- ・今でも女性が差別されていて教育が受けさせてもらえない（アフガニスタン）。
- ・現状戦争はしていないが国民の言論自由が弾圧されている。国境問題を複数持ち、経済、軍事大国であり、その影響が大きい（中国）。
- ・教会外での知り合いがいるため（台湾）。

今年の住吉教会平和旬間活動の感想（抜粋）

- ・とても分かりやすく良かった（数名より）。
- ・当教会の信徒も色々な国から来ており、タイムリーな内容である。
- ・「世界中で絶えない紛争」を少しでも知るきっかけになった。
- ・今、地球上のどこに紛争や戦争が行われているか、人類の平和が脅かされているかを認識させられた。
- ・この企画により、世界情勢を改めて見つめるきっかけになった。
- ・見える化でよく理解できる（数名より）。
- ・ご聖櫃が前にあることで今戦争中のウクライナを近くに感じられた。
- ・「平和を求める祈り」を捧げることに賛成する。
- ・各自の祈りに加えて、教会としての祈りも明確にしたい。
- ・日常の当然の祈りとの区別がしにくかったのではないかと（この期間だけでなく）。



(3) 平和への祈りの呼びかけ

10月23日のミサ後に、金神父は『平和を求める祈り』を呼びかけられました。

「一昨日の10月20日（金）は、私が日本に来てからちょうど3年になる日でした。コロナ禍の真っ最中に来ました。コロナが完全に収まる前に、ロシアによるウクライナ侵攻が始まりました。そして今、パレスチナとイスラエルが・・・。

皆さん、これは宗教戦争ではありません。イスラム教のアッラーとユダヤ教の神のために戦う、信仰のための闘いではありません。歴史の中で信仰のために戦ったのは殉教者だけでした。夜遅くまで、なぜこの途方もない悲劇が始まったのか考えてみました。資料を探し、自分なりに整理してみると、人間社会の虚しさに、生きる意欲さえ失ってしまいます。果たしてこのような世の中で、希望を抱いて生きていけるのでしょうか。時代の変化によって、昨日の友が今日の敵となり、力の論理によってこちらについたり、あちらについたり・・・。

ああ、これが人間ということなのか・・・。一つしかない地球で、依然として行われている無数の悪行。私たちは何を見失って生きているのだろうか？一体私たちは何のために生きているのだろうか？一番大切なのは、私たち人間一人一人が、神の似姿であるという事実ではないでしょうか！一人一人を本当に大切にするような社会が来ることを願い、心を合わせて祈りましょう。

皆さん、今日から毎晩9時に世界の平和のために一緒に祈りませんか？
毎晩9時、平和を求める祈りと主の祈り、アヴェ・マリアの祈り、そして栄唱を離れていても同じ時間に一緒に祈りましょう。それぞれの家の平和のろうそくを灯す気持ちで。」

平和を求める祈り

平和の源である神よ

今なお激しい戦闘が続くウクライナやパレスチナでは平和を望む多くの人が犠牲となっています。

苦しむ人、虐げられている人を支えてくださるあなたに祈ります。国々の指導者を正しく導き、憎しみではなく愛を、争いではなくゆるしを、分裂ではなく一致を求める心をお与えください。

住む家をなくし、恐怖と不安の中で生活を強いられている人々を力づけ、心と体に安らぎをお与えください。

いつくしみ深い父よ、

この世界に聖霊を豊かに注ぎ、敵対する人々の心から怒りの炎を消し去り、絶望にあえぐ人々の心に希望の火をともしてください。

あなたが望まれる和解と平和が、一日も早く実現しますように。

わたしたちの主イエス・キリストによって

～ウクライナのイースターエッグから～

はるばるウクライナからニューヨーク、そして金神父様によって住吉教会にもたらされた聖櫃を見た時、私は2022年のイースターに姉から送られてきたイースターエッグの写真を思い出しました。



「このイースターエッグは30年くらい前にトラピスト修道院の神父様からいただいたもの。今年、ついていた紙を読むとウクライナのものでした。本当の卵に針で小さな穴をあけ、中身を出したものです。こんなにもろく壊れやすいものが、ウクライナから日本に来て、私たちの家に30年もあります。こういう暮らしが営まれていたのだと、手にとりました。今、その地で行われている破壊が止まるまで、祈りをこめて飾ろうと思います。」という文章が添えられていました。その地で作られたものを見るとというのは、そこを思い・祈る助けになると思いました。

そして私は「卵」からの連想で、2009年の村上春樹のエルサレム賞受賞のスピーチを思い出しました。

～2009年村上春樹のエルサレム賞受賞スピーチより抜粋～

「もしここに硬い大きな壁があり、そこにぶつかって割れる卵があったとしたら、私は常に卵の側に立ちます。そう、どれほど壁が正しく、卵が間違っていたとしても、それでもなお私は卵の側に立ちます。正しい正しくないは、ほかの誰かが決定することです。あるいは時間や歴史が決定することです。もし小説家がいかなる理由があれ、壁の側に立って作品を書いたとしたら、いったいその作家にどれほどの値打ちがあるでしょう？さて、このメタファーはいったい何を意味するのか？ある場合には単純明快です。爆撃機や戦車やロケット弾や白燐弾や機関銃は、硬く大きな壁です。それらに潰される非武装市民は卵です。それがこのメタファーのひとつの意味です。

しかしそれだけではありません。そこにはより深い意味もあります。こう考えてみて下さい。我々はみんな多かれ少なかれ、それぞれにひとつの卵なのだ。かけがえのないひとつの魂と、それをくるむ脆い殻を持った卵なのだ。私もそうだし、あなた方もそうです。～後略

* 註 メタファー:たとえ、隠喩、暗喩

ここにたとえられている「卵」は、金神父様の平和への祈りの呼びかけにある「神の似姿」という言葉に置き換えられるのでは、と思いました。

終わらないロシア・ウクライナの戦争、そしてイスラエル・パレスチナの紛争が始まったこの秋。政治的・思想的にいろいろな考えがあると思いますが、私達キリスト者の最大の掟は「愛」ということ。そして、戦争や紛争の犠牲者、暴力の中命の危険にさらされている人、弾圧や差別に苦しむ人、皆等しく「神の似姿である人間」であることを私達は忘れてはならないと思いました。そして、村上春樹のことばを借りるなら、「それでもなお私達キリスト者は常に卵の側に立ちます」と。

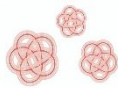
(編集部 H・H)

《 住吉教会 2023 》

1月8日（日）～新成人のお祝い～

主の公現の主日のミサの中で、二十歳を迎えられたお2人が祝福されました。ジェロム神父様に将来のことについて尋ねられ、ご両親や見守ってくださった方々への感謝の気持ちを表しながら、若者らしい抱負をしっかりと答えられる姿に、ミサに与る皆さんから温かい拍手が送られました。

神さまがこのお2人のこれから歩まれる道を照らし、導き、そして豊かなお恵みをもたらされますようにと、信徒一同お祈りいたしました。



トマス・アキナス H・Oさん
マリア A・Yさん



* A・Yさんからのコメント*

一緒に成人を迎えた皆様、法改正により成人の年齢が引き下がりましたが、実際に20年生きて式典などに出席されるとなるとまた心持ちが違うのではないのでしょうか。これまで歩いてこられた20年ほどのような人生だったか、この機に思い返してみてください。真っ先に思い浮かぶことは人それぞれあると思いますが、たくさんのお出来事の中に教会での思い出もあるでしょう。クリスマスのミサの後の立食パーティー、初聖体のための勉強、教会学校のことなどなど…神様が与えてくださったお恵みが、これまでの私たちの人生をより豊かに彩っていたんだと思います。人生80年、いや100年時代とも言われる現代において20年なんて月日はまだまだで、この先様々な困難や試練が私たちを待ち受けています。でも、これをまだ知らない未来を見られるチャンスがあると考えると前向きに、時には後ろを振り返ってこれまでの足跡を再確認し、神様が与えてくださる希望と共に歩いて行けたらいいのではないのでしょうか。

1月22日（金）～キリスト教一致祈祷週間 共同礼拝～

2023年キリスト教一致祈祷週間（1月18日～25日）を迎えました。今年のテーマは「善を行い正義を追い求めなさい」（イザヤ1・17）とされました。

共同礼拝が神戸地区では1月20日（金）18時から住吉教会で開催され、カトリック大阪大司教区の酒井俊弘補佐司教、ロッコ・ビビアーノ神父、住吉教会赤波江豊神父、日本基督教団東島勇人牧師、日本福音ルーテル教会神崎伸牧師の共同司式で行われました。

各教派約40名が参加され、共に祈りを捧げました。



2月22日（水）～灰の水曜日～



午後7時より灰の水曜日のミサで「回心して福音を信じなさい」と唱えられる赤波江神父様から灰をいただきました。

「ウクライナの戦禍から一年、いまだ多くの人々が困難の中にあります。困難な時にこそ未来への展望は現われる、福音の芽生えを大事に育て、そして今こそ救いと恵みを求めるときです。」とのお言葉が深く感じられた灰の水曜日でした。四旬節が始まり、復活祭を喜びの内に迎える準備ができるようお導き下さい。

4月2日（日）～受難の主日（枝の主日）～

受難の主日（枝の主日）のミサが赤波江神父様司式で行われました。教会ホールで棕櫚の枝を持って赤波江神父様から祝福を受けたのち、枝で飾られた十字架をもった丹生神学生、侍者、赤波江神父様に続き、信徒も枝を手に入堂しました。コロナ感染拡大下で見合わされていた枝の行列も4年ぶりです。

司祭、朗読奉仕者、会衆が分担して行われる受難の朗読をうけて、赤波江神父様は「このように全員で朗読することは、イエスを十字架につけたのは当時のユダヤ人だけではなく、今も私たちは罪によって、イエスの手に釘を打ち続けていることを実感するためなのです。」と話されました。

また、「イエスは荊（いばら）の冠をかぶせられましたが、荊とは野ばらであり、派手ではない可憐な花をつけます。荊は荊では終わらずいつか花を咲かせます。今、荊の道をおられる方、いつか花が咲く日が来る、もしかしたらもうすでに1輪可憐な花をつけているかもしれません。荊は荊で終わらない、ということをお心にためて歩いて行ってください」と話されました。

ミサの後、復活祭前の大掃除を行いました。これは3年ぶりです。
聖週間に入りました。ご受難に思いをめぐらし、心を整え、主の復活を待ち望みます。



4月6日（木）～聖木曜日～

聖木曜日、主の晩さんの夕べのミサが赤波江神父様の司式で捧げられました。
当日は、悪天候でかなりの雨がふりました。
今年は、洗足式は行いませんでしたが、ミサの後、聖体安置式を行いました。



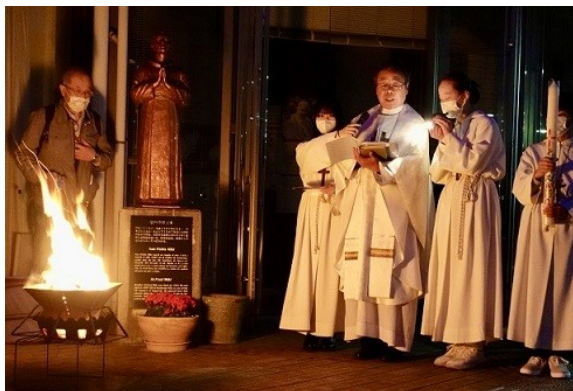
4月7日（金）～聖金曜日～

聖木曜日につき、7日は主の受難、聖金曜日でした。
静寂の中、赤波江神父様が入堂。ことばの典礼に続くお説教で「苦しみの中で最後の時を迎えられた主の『成し遂げられた』というお言葉に、私たちもそう思える生き方ができることを願います」とのお話が心に響いた聖金曜日でした。



4月8日（土）～復活の聖なる徹夜祭～

花冷えの4月8日の夜、赤波江神父様の司式で復活徹夜祭のミサが行われました。教会の前庭で「光の祭儀」が行われ、復活徹夜祭の典礼がはじまりました。復活徹夜祭の典礼は「光の祭儀」「ことばの典礼」「洗礼と堅信」「感謝の典礼」の4つの部分で構成されています。



住吉教会では、一人の成人の方の洗礼・堅信の式がおこなわれました。



洗礼おめでとうございます。

T・T さん

4月9日（日）復活の主日

赤波江神父様司式のもと、復活の主日のミサが行われました。3年の間、コロナ感染拡大を防ぐために教会内で行っていた自主規制が少しずつ緩和され、マスクを着けながらではありますが、復活の聖歌を皆で歌うことができました。主の復活を、まさに「喜び歌え アレルヤ アレルヤ♪」と歌い祝いました。

赤波江神父様が説教の中で「今年の桜はいつにもまして美しく感じました。3年前、新型コロナウイルスが流行り始めた春には感じられなかったことです。ウクライナの方々が心からひまわりが美しいと感じられる日が来ますように」と話されました。

6月17日（日）～聖堂献堂17周年のお祝いをしました～

年間第11主日のミサが金神父様の司式で行われました。

金神父様は説教の中で「イエス様が使徒を選び権能を授けられた理由は、今日の福音にあるように『群衆が飼い主のいない羊のように弱り果て打ちひしがれているのを見て深く憐れまれた』からです。12人の選ばれた人が重要なのではない。彼らを選んだイエス様の心が重要なのです。教会はそのようにして生まれました。この世の荒波に苦しむ群衆に対する、イエス様の憐みの心があったから教会が始まったのです。憐みの心から生まれた教会は、同じ憐みの心で世の中に向かって進まなければなりません。

神様が望まれる教会のあり方は？

自分が受けたものにとどまっているのではなく、受けたことに気づきそれを他にも分かち合う教会です。もう一度イエス様の『ただで受けたのだから、ただで与えなさい』というお言葉を思い出しましょう。献堂17周年、この住吉教会が信者のためだけの教会でなく、街の燈台のような役割を果たすことができるように願ひましょう。」と献堂17周年を迎える住吉教会の信者に向かって呼びかけられました。

ミサ後、金神父様歓迎会と献堂17周年を祝うパーティーが開かれました。2006年の献堂当時の建設委員長が、開会の挨拶でこの教会の建設にあたってのコンセプトを改めて紹介してくださいました。

- ① 地域との交わりを大切にする教会
- ② 幼稚園を大切にし、共に歩む教会
- ③ 信徒の交わりを大切にし、癒される教会
- ④ 東灘区における宣教に力を入れる教会

うまくいっている事柄、まだもっと努力が要る事柄をよく見極めて前進する教会でありますように。

乾杯の後は神父様のドリンクコーナーで楽しむ方や評議会の皆様が用意してくださったサンドイッチや大人気のアイスクリームも登場し、コロナのために長い間来られなかった方々の楽しい語らいの時間が過ぎました。

良い一日を恵まれて感謝。



7月15日（土）～16日（日）～4人の神学生が来られました～

韓国のソウル大司教区から大阪大司教区に研修に来られている4人の神学生が、7月15日～16日、住吉教会に滞在されました。

15日（土曜）の教会学校では、リーダーとして子供達と一緒に祈りしたり、遊んだりしてくださり、子供達も大喜びでした。



16日は、金神父様司式の主日のミサで侍者をしてくださいました。



ミサ後には、オルガン演奏のプレゼントも。

韓国の聖歌集221番「받아 주세요」、「受け取ってください」というタイトルだそうです。

神様の呼びかけに応え司祭を志す4人の神学生の方々に、これからも神様の豊かな祝福が注がれますようにと、お祈りいたしました

8月8日（火）～7人の神父様と4人の神学生～

7時からの朝ミサを11時からに変更し、7人の韓国の神父様によりミサが捧げられました。先日も住吉を訪問して下さった4人の神学生も侍者を務められました。その結果、総勢11人が祭壇にいらっしゃるという、ここ住吉では珍しいごミサとなりました。



司式は熊本からいらしたキム神父様、福音書朗読とお説教は福岡県直方市のシン神父様が勤められました。同時に、韓国からCPBCというカトリックのメディアのクルーも来られて、韓国の神父様方の宣教の様子を紹介するドキュメンタリー番組の撮影をされていました。

日本での宣教のためにご尽力くださっている神父様方に感謝申し上げます

またミサの中で2018年8月に帰天された傘木澄男神父様のためにお祈りいたしました。



8月15日(火) ～聖母被昇天祭～

午後6時半からロザリオの祈り、午後7時から聖母被昇天ミサが捧げられました。「この強い台風の中、雨にも負けず、風にも負けず、祈りを捧げに集まった皆さんは、聖母の大きな力の源となるでしょう」と、金神父様の言葉と共にミサは始まりました。30名を超える人々の祈りは、戦争や紛争など、世界が今、直面する複雑で困難な問題に対して、結び目を解く、平和の元后、聖マリアに捧げられました。

※ 当日は、大型の台風7号が兵庫県を直撃し、大雨・洪水・暴風・波浪・高潮の警報が発令されました。午後から「ミサ後のパーティーは中止、各自生命を守る行動をくれぐれもお取りください」とのメッセージが連絡網を通じて伝えられました。そのような状況の中で行われました。



9月17日(日) ～敬老の日の祝福～



敬老の祝日(18日)の前日の主日ミサの中で、敬老の祝福と祈りが捧げられました。

平和で豊かな日本の社会を築き、教会のために力を尽くされてきた人生の先輩方に感謝し、神様の豊かなお恵みがますます注がれますように……。

9月23日(土・祝) ～酒井司教が巡礼を引率して訪問されました～

午後4時頃、10月にスペインのサンティアゴ・デ・コンポステーラに行く信者さんたち25人の巡礼グループと酒井司教様が、住吉教会を訪問しました。

朝8時に尼崎教会を出られ、歩いて甲子園教会、夙川教会、芦屋教会に寄られ、住吉教会に4時すぎに到着されました。20キロ歩かれたそうですが、皆さん、お元気そうで足も大丈夫とのことでした。酒井司教様、金神父様によってミサが執り行われました。住吉教会信徒は、歓迎のお茶とお菓子でおもてなし。



10月15日（日）～セニョール・デ・ロス・ミラグロス～

第28主日、ロペス神父様、金神父様によるスペイン語と日本語のミサに続き、ペルーのセニョール・デ・ロス・ミラグロスをお祝いしました。

たくさんのペルーの方々が遠方から来られ、ミサ後には恒例のお神輿を担いでの行列が行われました。両神父様もお神輿と一緒に担がれました。前日までの雨はすっかり上がり、皆さんのお祈りが届いたかのような秋晴れの下、行列に引き続き、聖堂前で美しい民族衣装でのダンスや音楽、そしてゲームなどで楽しいひとときを過ごしました。



11月5日（日）～追悼祈念祭～

「追悼祈念祭」のミサが金神父様の司式で執り行われました。帰天した家族・友人・恩人・知人の名前を記入したカードが奉納され、共同祈願では、この一年に帰天された住吉教会の兄弟姉妹の名が読み上げられ、またゆかりのすべての死者のために祈りが捧げられました。また、ミサのあとに、それぞれが持ちよった故人の写真を祭壇の前に立て、金神父様が用意してくださった「亡くなった方々のための祈り」を唱えながら祈りを捧げました。



詩篇130

深い淵の底から、主よ、あなたを呼びます。主よ、この声を聞き取ってください。嘆き祈るわたしの声に耳を傾けてください。

主よ、あなたが罪をすべて心に留められるなら 主よ、誰が耐ええましょう。しかし、赦しはあなたのもとにあり 人はあなたを畏れ敬うのです。

わたしは主に望みをおき わたしの魂は望みをおき 御言葉を待ち望みます。わたしの魂は主を待ち望みます 見張りが朝を待つにもまして イスラエルよ、主を待ち望め。 慈しみは主のもとに 豊かな贖いも主のもとに。 主は、イスラエルを すべての罪から贖ってください。

主よ、この世を去ったすべての人に、永遠の安息を与えてください。

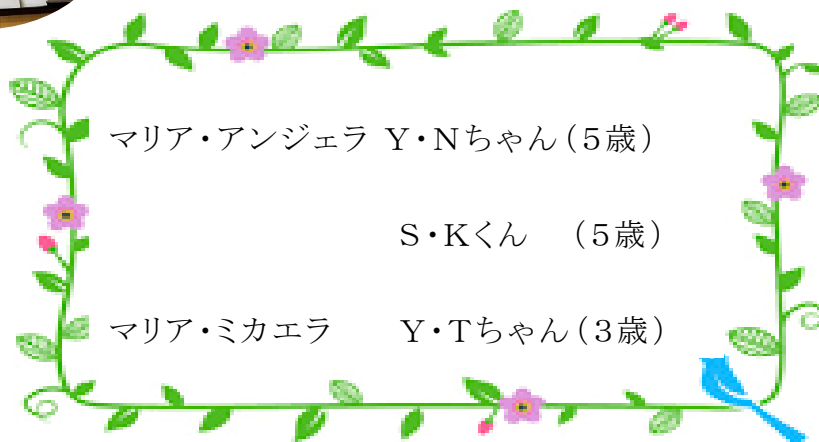
11月12日（日）～七五三の祝福～

主日のミサの中で、3人のお子さんたちが、金神父様から七五三の祝福を受けました。金神父様のストラには、各国の民族衣装を着た子供たちが描かれていました。子供たちはお説教の前にスクリーンに映された子犬と親鳥の心温まるアニメに見入っていました。

ご家族はもとより、私たち皆の希望であり、未来である子供たちに、神様の祝福とお恵みがありますようにと、信徒一同お祈りいたしました。

保護者の祈り

すべての父である神さま、この子供たちを授けてくださったことを心から感謝いたします。この子供たちが、強く正しく生きるために必要なお恵みをいつも与えてください。また、親としての務めを、ふさわしく果たせるように光と力を与えてください。主イエス・キリストによって、アーメン。



マリア・アンジェラ Y・Nちゃん(5歳)

S・Kくん (5歳)

マリア・ミカエラ Y・Tちゃん(3歳)



《住吉フィエスタ2023》

フィエスタ実行委員長 M・S

4年ぶりの開催となったフィエスタ住吉でしたが、天候にも恵まれ、和やかに過ごすことができました。

例年好評の古着は後処理が困難なことから今年は見送り、雑貨のみとなりましたので、どのくらい商品が集まるか気を揉みましたが、食器やタオル、ハンカチ、手芸品、アクセサリなどたくさんの品物をお寄せいただき、こちらも例年通り楽しくお買い回り頂くことができました。近隣の方や、幼稚園の方、教会学校、そのOBの方など、たくさんご来場下さり、神父様も4名お見えになりました。

『サンパウロ大阪宣教センター』よりクリスマスカードや本の委託販売、『NPO 法人福島やさい畑』のりんごと加工食品や、パレスチナ難民支援、『コンコルディア南相馬』、フィリピン山岳地域の就学支援をしている『まのぼっこ』の手芸品なども、販売に来て下さいました。「住吉教会はとても温かで良い雰囲気ですね」と皆さん口々におっしゃられていました。また、どんな方が、どのような思いで作られた物かをわかった上で買ってほしいとの思いから、マイクでご説明もして頂きました。

震災から12年経った福島県の現状や、パレスチナで就労が難しい女性たちが作る伝統刺繍工芸のこと、彼女らが今とても困難な状況にあること、またフィリピンの山奥で、貧しい子供たちが寄宿舎で勉学に励んでいる姿など、お話を聞いて、すぐ隣に感じるように感じました。短い時間でしたが、私にとって、とても意義の深い交流となりました。

ご提案により、今回初の試みがありました。指ヨガ・ハンドヒーリングのコーナーは常に予約待ちで、時間いっぱいまで接客して頂きました。プラレール・Nゲージ鉄道模型のコーナーには、たくさんのお子様たちが、お家から自分のお気に入りの車両を持ち込み、大きく立体的な線路の上を走らせ、大いに楽しんでくれました。輪投げや綿菓子も人気でした。

焼きそば、おでん、ホットドッグ、ペルー料理(チキンライスとターキーサンド)、ぜんざいと従来の同じ規模の食数を準備しましたが、前日の気温も低く、売れ行きが心配でしたが、食券売り場にも、それぞれの引換にもたくさんのお客さまの姿が見られ、皆さんお食事を楽しんでいらっしゃいました。

また、教会学校のお子様たち、青少年のギターやバンドによる演奏、キム神父様も素敵な歌声をご披露下さり、楽しい雰囲気に華を添えて頂きました。

様々な懸念があり、何度も挫けそうになりましたが、皆さんのお力が集まって、本当に素晴らしい1日になりました。

1人では何もできないこと、力と心を合わせることの大切さを教えて下さった神様に感謝！



ふくしま・南相馬コンコルディアコーナー

NPO法人 福島やさい畑

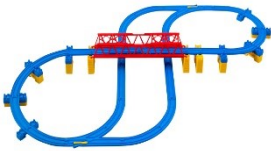


行列のできるハンドヒーリング



サンパウロ大
阪宣教セン
ターの
本やカード

子供達に大人気のフラレールコーナー



若い人達のホットドッグコーナー



「今まで食べた中で一番おいしい
焼きそばだった」とコーナー長自
慢のやしそば！

本場ペルー料理！！
ターキーサンドとチキンライス



テーブル席では、焼きそば・おでん・ホットドッグ・
ぜんざい・ペルー料理に舌鼓



雑貨・手芸
コーナーも
大盛況

青少年のバンド演奏に、皆手拍子で大盛り上がり！



教会学校の子供達、クリスマスコンサートにお
けて練習中の歌を披露してくれました

実行委員長
ほっとした笑顔で閉会の挨拶
お疲れ様でした



《追悼 ヨセフ阿部眞理ブラザー 》

Y・N

Dear Br. 阿部

ブラザーとお逢い出来たのは、神様からの素晴らしいプレゼントです。いつも暖かく迎えて下さり、力強い握手とハグで優しさに包まれました。

毎年恒例の住吉教会への移動販売をみんな楽しみにしていました。良書の紹介で世界が広がり、いつも和やかな場になっていました。そのあとみんなで行ったお食事会でいろんなことをお話しできた楽しい時間も懐かしい幸せな思い出です。

また住吉の LINE グループに送って下さった『みことばのわかち合い』は、いい黙想の時間になり毎日送られてくるのが待ち遠しかったです。コロナ禍で会えない方々との繋がり場になり広がったのは、ブラザー阿部の宣教の賜物だと思います。

あの素敵な笑顔のブラザーにもうお会い出来ないと思うと寂しく心が痛みますが、いつか神様の御許でお会いできるまで、祈りの中で導いて下さいね。

たくさんの優しさと情熱をかけて下さった宣教に心から深く感謝いたします。ありがとうございました。



◇略歴◇

- 1958年 10月18日 福島市に生まれる。
10人の兄弟姉妹(男7人、女3人)の六男。
- 1971年 3月30日 聖パウロ会入会
- 1979年 3月25日 初誓願宣立
- 1985年 3月19日 終生誓願宣立
- 1987年 ~1999年 箕面修道院赴任
- 2000年 ~2007年 若葉修道院／四谷修道院赴任
- 2008年 ~2011年 箕面修道院院長
- 2011年 ~2023年 姫里大阪修道院院長
- 2023年 1月16日 福島実家にて帰天
(享年64歳)



2023年1月5日の最後のLINE

『苦しまなかつたら』
もし 私が苦しまなかつたら
神様の愛を知らなかつたら
もし多くの兄弟が苦しまなかつたら
神様の愛は伝えられなかつたら
もしも主なるイエス様が苦しまなかつたら
神様の愛はあられなかつたら
一水野源三 詩集より

主と共に歩んだ、しあわせな
生涯でした



《 東北巡礼の旅 》

6月12日～15日までの4日間、エマニュエル神父様とともに21名の参加で東北の古い教会やキリシタンゆかりの地、そして震災被害の大きかった地域の教会を訪問する巡礼旅行が行われました。カトリック気仙沼教会では90歳の信者さんに震災当時の様子を伺い、共に祈りました。

- 1日目：大阪を出発して青森に到着後、本町教会にてミサ、弘前教会を訪問、十和田湖畔泊
- 2日目：十和田教会でのミサ、奥州市の水沢教会を訪問、大船渡泊
- 3日目：大船渡教会でのミサ、奇跡の一本松などの震災遺構を訪問、気仙沼教会から大籠キリシタン殉教公園
- 4日目：最終日は広瀬川・仙台キリシタン殉教碑、最後は仙台カテドラル、元寺小路教会でのミサの後、帰路へ



写真撮影・資料提供：A・Y

(編集部による聞き書き)

《チーム制って何でしょう・・・》

チーム制の発足を調べてみようと、「すみよし」号のバックナンバーを繰ってみました。阪神淡路大震災の後の1995年のクリスマス号に教会の組織変更案が掲載されており、その中に「教会機能の殆どがヨゼフ会・婦人会等の役員の方に担って頂いたのが実態であります。『信徒全員が教会構成員である』という原点に立ち返り、本来の委員会組織に変更したく思います。」という文章を見つけました。また、そこには「信徒一人一人がそれぞれのタレントに目覚め共に働き、奉仕する教会」という素敵な言葉も載っていました。そのあとの1996年3月に実際にチーム制が発足・活動を始めたようです。その頃の各チームの活動の様子も、「すみよし」のバックナンバーに載っておりますのでご覧になってみてください。

1997年のクリスマス号にはこんな記事も載っていました。📖📖

教会は・・・

ミサに行けば準備もできていて、花は枯れずに咲いているし、トイレトペーパーが無くなれば補充されているし、雑貨や古着の提供があれば仕分けされて必要な人の目にとまるようになっている。その他いろいろなことが、各チームの人を中心とした人の手によっていつのまにか準備されている魔法のような所です。教会は人の手そのものです。でも、ちょっと考えてみてくれませんか。

いつも時間を出して働いてくださっている人が余分な時間の持ち主？

いつも気配りをして働いてくださっている人が余分な気配りの持ち主？

もしあなたが少しの時間と手間を差し出すことができるなら自分に問いかけてみてはいかがでしょう。「自分には何ができるかしら」と・・・そして、自分にできることがあれば、見つけられたらラッキー！1本の草を抜くこと、ごみをひろうこと、お掃除当番に加わること、本や書類の整理をすること、聖歌を歌うこと、知らない人のために祈ること、笑顔をむけること、ミサ後の一杯の紅茶を飲むことも。

現在のチームはどうなっているでしょう。

新しくチームに入ってくくださる方も少なく、チーム発足の頃から教会のためにチームでお働きくださった先輩方もお年を召していらしたのに・・・1人で2・3チーム掛け持ちなんて珍しくもなく・・・といった現状です。

皆様、お忙しい毎日をお過ごしのことと存じます。子育て、介護、仕事の激務・・・1日24時間では足りない、という時が人生にはあり、病気やけがで教会に来ることさえできない時期もあります。

教会のためにお時間ができた時にはぜひチームのこと思い出して、皆様のタレントをお持ち寄りください。チームに入って活動することは、いわゆる「教会のお役」があたるといったイメージではなく、神様のもとに集う家、私達の家をみんなをよくしていきましょう！ということなのかしら、と思うこの頃です。 (編集部)

チーム紹介

宣教チーム

- 1・地域との交わりを大切にする教会
 - 2・幼稚園を大切にし、共に歩む教会
 - 3・信徒の交わりを大切にし、癒される教会
 - 4・地域の宣教に力を入れる教会
- を宣教の基本方針として進めていきます



信徒一人ひとりが教会活動に参加できるように「チーム制」をとっています。どのチームも新メンバー大歓迎ですのでお気軽にのぞいてみてください。

司牧チーム

住吉教会が一つの家族として進んでいくために心を尽くします。
(地区活動・訪問・連絡網整備など)

典礼チーム

神への賛美と感謝の祭儀に集う一人ひとりが回心と信仰への思いを強め、祈りをささげることができるよう奉仕します。(ミサの準備・聖歌隊)



毎週火曜日に聖歌隊
の練習をしています。
ご一緒にいかがで



財務チーム

財務チームは教会活動の潤滑剤です。教会維持費等の献金にご協力下さい。

施設管理チーム

聖堂・信徒館・司祭館の建物と設備をいつまでも良好なる状態で使用できるよう維持していく目的として、長期メンテナンスの計画を立案します。

営繕チーム

教会建物・設備の総合的な運営・維持・管理を行っています。
お掃除当番などのご協力をよろしくお願いいたします。



国際チーム

セニョール・デ・ロス・ミラグロスの行事を通して、外国人信徒と日本人信徒との交流を図ります。

教会学校チーム (小1～小6対象/サブリーダー中学生)

第1、第3土曜 14:00-16:00

実生活に結びつけた神様のお話をするようにこころがけています。いつも神様がそばにいて見守ってくれていることが伝わるように・・・



Fr. Peter Kim & 住吉教会学校



クリスマスチャリティーコンサートに、教会学校の子供達も参加。(12月2日:カトリック神戸中央教会にて)



秋から練習してきた成果を發揮!



青年学生チーム

教会学校のキャンプの手伝いや教区の青年の活動に参加して、交流を深めています。

養成チーム

小教区養成業務の支援を行います。

侍者の育成、堅信、初聖体、信仰講座などのお手伝いをします。



ホームページ委員会 <https://cath-sumiyoshi.sakura.ne.jp>

WEBを使って広く宣教を支え、信徒に情報を伝えます。

コンピュータ、ビデオなどに興味ある方歓迎。

広報チーム

住吉教会の活動を、教会内外にお知らせしています。

(掲示板の管理・教会誌「すみよし」年1回発行・図書 of 整理)

社会活動チーム

- ・社会活動センター(神戸中央教会)での炊き出しボランティアへの協力をしています。(住吉教会は第1土曜日)
- ・シナピス神戸地区活動への参加、協力をしています。
- ・カトリック障害者連絡会議や神戸船員センターへの支援をしています。
- ・各種団体への募金協力、署名活動をしています。(エンブリオ・古切手集めなど)

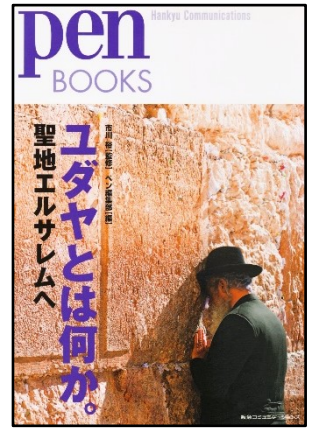


ミサの受付時に、ウクライナ危機およびガザ人道支援基金の募金の箱を設置しています。よろしくお願ひいたします。

《図書紹介》

「ユダヤとは何か。聖地エルサレムへ」

ペン編集部[編] 阪急コミュニケーションズ発行 2012年



なぜ、平和の君であるイエスがベツレヘムの馬小屋で誕生し、聖家族はエジプトへ逃避しなければならなかったのか。そこにはユダヤという特異性が関係しているかもしれない。本書『ユダヤとは何か』は歴史、宗教、文化の視点からユダヤに迫る。ユダヤの歴史は今から遡ること4000年、神の示す地へ移住したアブラハムに子孫の繁栄とカナン（現イスラエル）の地を与えるという、神の約束に始まるとされる。ダビデ王がイスラエルを統一、次王ソロモンが十戒の石板を納めた神殿をエルサレムに建設するも、彼の死後に王国は分裂し、北のイスラエル王国はアッシリアに、南のユダ王国は新バビロニアに滅ぼされた。その後、新バビロニアを滅ぼしたペルシア王によりユダヤの民の帰還が許されたが、セレウコス朝シリアによる迫害、紀元前63年のローマ帝国による属州化、西暦132年にはユダヤ人最後の抵抗となった第2次対ローマ戦争でエルサレムは破壊、ユダヤ人はいっさいの立ち入りを禁止されて世界各地に離散した。その複雑な経緯を紐解くユダヤ視点による旧約聖書理解や、現在活躍中のアーティスト等、文学、芸術、建築分野におけるユダヤまで、多彩なカラーイラストや写真を交えてバランス良く解説されている。また、話し言葉としてのヘブライ語の復活秘話、パレスチナ自治区ベツレヘムの聖カテリナ教会での深夜クリスマスミサで中東社会の平和を願うアッパーズ議長や様々な人種のクリスチャンの祈りを伝える現地ルポも興味深い。そして、ユダヤ教、イスラム教、キリスト教の3宗教にとっての聖地エルサレムの意味、ニューヨークからエルサレムに移住したショア一家の生活や地域住民を牽引するラビの一日、さらにユダヤ宗教学校や超正統派と呼ばれる人々の暮らしなど、現在の中東情勢を理解する上で極めて重要な内容が取り上げられている。

(編集部)

《緊急 映画上映会》

12月23日(土) 13:00～ カトリック住吉教会にて



ガザ地区では今何が起きているのか、危機的な状況の中で市民の命を守るため私達に今出来ることは何か、を考えていくために、ジャーナリスト古居みずえ氏が2008・2009年のガザ侵攻直後に撮影したドキュメンタリー映画「ぼくたちは見た・サム二家の子どもたち」の上映会を行います。

～映画ポスターより 写真・紹介文抜粋～

《 教会日誌 》

1 月	1 日 (日)	新年ミサ (神の母聖マリア・世界平和の日)
	8 日 (日)	新成人の祝福
	15 日 (日)	阪神淡路大震災 28 周年追悼
	20 日 (金)	キリスト教一致祈祷週間共同礼拝
2 月	22 日 (水)	灰の水曜日
4 月	2 日 (日)	受難の主日 (枝の主日)
	6 日 (木)	聖木曜日 (主の晩餐)
	7 日 (金)	聖金曜日 (主の受難)
	8 日 (土)	聖土曜日 (復活徹夜祭) 洗礼
	9 日 (日)	復活の主日
5 月	24 日 (水)	帰天司教・司祭および納骨者 追悼祈念ミサ・納骨式 (甲山墓園)
5 月	28 日 (日)	聖霊降臨の祝日
6 月	11 日 (日)	キリストの聖体
8 月 6-15	日 (日～火)	日本カトリック平和旬間
	15 日 (火)	聖母の被昇天
9 月	17 日 (日)	敬老のお祝い
10 月	15 日 (日)	セニョール・デ・ロス・ミラグロス
11 月	5 日 (日)	追悼祈念祭ミサ
	12 日 (日)	七五三の祝福
	19 日 (日)	住吉フィエスタ
12 月	24 日 (日)	主の降誕 夜半のミサ
	25 日 (月)	主の降誕 日中のミサ

2023年8月15日、大阪教区と高松教区を基盤とした、新たな**大阪高松大司教区**が設立され、10月9日に設立式が行われました。

《編集後記》

今年は春からミサ中に全員の歌声が聞こえ、夏からはミサゴがスタートして明るい話声と共に笑顔がみられる様になりました。久しぶりに今まで通りのクリスマスのミサに与られます事に感謝致します。この一年を振り返りますと国内外での嬉しい出来事で喜び心が弾む事があった一方悲しむ事もあり、戦争と争い、災害等の報道で心を痛める事が続いています。

悲しい時、辛い時に私に希望と共に受け入れる力を注ぐ歌は 1965 年のヒット曲の今でも大好きなバーズの「ターン、ターン、ターン」です。当時はまだ洗礼を受けておりませんでした。心に響いたその歌詞がコヘレトの言葉と知ったのは聖書の勉強を始めた数年後でした。

何事にも時があり、天の下の出来事にはすべて定められた時がある。

生まれるとき、死ぬ時

植える時、植えたものを抜く時・・・

愛する時、憎む時

戦いの時、平和の時 (コヘレト 3:1～8)

神にゆだねて、今はどの『時』に居てもそれは季節と同じく変わるので、新たな『時』を待ち、安堵、希望、感謝の心と深い信仰で迎えたいです。

A・M

主よ、日々の生活の中で困難に直面し、時間に追われ、疲れ切った私たちを支えてください。私たちが、祈りのひと時を思い出し、神のいつくしみに触れ、心が癒されますように。そして、主が歩まれた道に導かれますように。今も困難を抱える人々を顧みてください。あなたの言葉が希望の光となり、平和が訪れますように。

S・S

「すみよし」第212号

発行日	2023年12月24日
発行責任者	金神父 コンサルタ神父
編集・印刷・発行	広報チーム
発行所	神戸市東灘区住吉宮町2-18-23 カトリック住吉教会
TEL	078-851-2756
FAX	078-842-3380
	https://cath-sumiyoshi.sakura.ne.jp



教会案内



【ミサ】

日曜日

9:30

月～土曜日

7:00

第1・第3土曜日

(スペイン語)

19:00



ミサの時間の変更等がありますので
HPの「今月の行事予定」でご確認ください。

【講座】 未定

【教会学校】 第1・3土曜日 14:00～15:30

対象:小学校1年生～6年生

【社会活動】 野宿者支援の炊出し・神戸入港の外国船乗組員支援ほか

* ミサ・講座とも、時間・曜日に変更がある場合があります

詳細はカトリック住吉教会ホームページをご覧ください。

<https://cath-sumiyoshi.sakura.ne.jp>

TEL 078-851-2756 FAX 078-842-3380



Paix

フランス

平和

Fred

スウェーデン

PAZ

ペルー

Peace

イギリス



평화

韓国

शांति

インド

Kapayapaan

フィリピン

PEACE

アメリカ

Frieden

ドイツ

BÌNH AN

ベトナム